Ⅱ-1

管理栄養士

吉井雅恵
南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター 栄養部

近年，チーム医療において管理栄養士の活躍する分野は多岐にわたり，それぞれの施設により特徴は分かれる．そのなかでも糖尿病チームへの管理栄養士の参画は歴史があり，多くの施設において教育入院を中心としたチーム医療にかかわっている．しかし，近年は急性期病院においては救急搬送などの病床確保のためや，主傷病が糖尿病の場合，入院医療は急性増悪時の治療に限定され，糖尿病の教育の多くは入院から外来へシフトされ，管理栄養士による指導も入院中に十分かかわれないことがしばしばある．また，多職種がかかわる教育入院に比べ，外来でかかわる職種は限定されるため，多職種によるチーム医療のかたちも変化の時がきている．本稿では，当院の取り組みをもとに，糖尿病患者にかかわる管理栄養士の課題や展望について考えてみたい．

南奈良総合医療センターの取り組み

当院は2016年4月に奈良県の南和医療圏にある3つの病院が統合再編され，南奈良総合医療センターでは急性期医療，吉野病院・五條病院は地域医療センターとなり，急性期からリハビリ・長期療養までのシームレスな医療提供体制を構築し，地域医療に貢献することを基本方針に南和広域医療企業団として再スタートした（図1）．3病院でそれぞれ糖尿病の診療はされていたが，糖尿病チームにおいては町立大淀病院を基本に再編し，糖尿病チームの立ち上げとなった．

糖尿病チーム

メンバーの構成と主な業務内容を示す（表1）．このなかで主に管理栄養士がかかわるものについて紹介する．

教育入院

7泊8日のクリニカルパスを運用している（図2）．このなかで管理栄養士は集団指導1回と個人指導を2回行っている．また，他職種と当番制でカンバセーションマップも担当している．

糖尿病チーム回診（週1回）

参加者は医師，薬剤師，管理栄養士，歯科衛生士，リハビリ（理学療法士または作業療法士），臨床検査技師，地域連携室，病棟看護師，外来看護師で，電子カルテに回診用のフォームを作成し，病状，合併症の有無，薬物療法，食事療法，運動療法などの情報を入力し，回診前に共有を行う．回診の場では，治療方針の確認，フットチェック，口腔内チェック（必要であればその場で歯科口腔外科へコンサルト），硬結の有無の確認（インスリン治療の場合），また，主治医と各職種間で患者の性格や理解度を含めた療養支援について情報共有を行う．

外来での指導（栄養指導，糖尿病透析予防指導）

糖尿病の栄養指導は，2019年度は年間560件で，外来栄養指導のなかで一番件数が多い疾患である．管理栄養士は曜日で担当制をとっており，初回に担当した管理栄養士が終了時まで担当している．

糖尿病透析予防指導は看護師と同席で行っており，年間約80件実施している．看護師からは腎症について，現

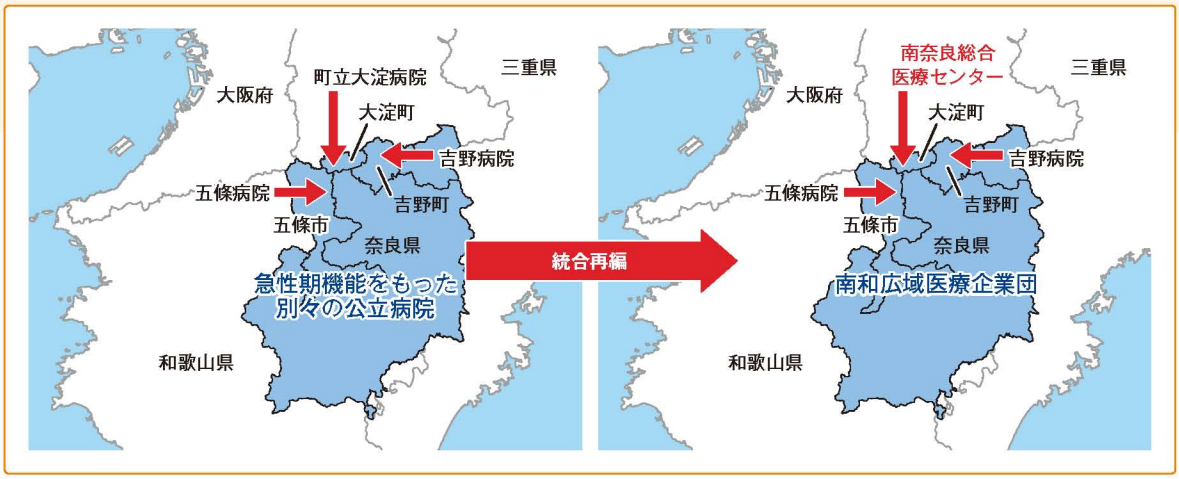

図1 南和広域医療企業団統合再編

表1 糖尿病チームメンバーと主な役割

部門	専門業務	協働業務
医師	専門外来での診療，治療方針の決定	糖尿病市民公開講座 患者会 スタッフ研修会の企画，運営 教育入院の運営，テキストの作成 糖尿病に関連する資材の管理，マニュアル作成 なら糖尿病デーへの参加 学会発表
看護師	看護部研修会，透析予防指導，フットケア外来	
薬剤師	服薬指導，インスリン自己注射指導	
臨床検査技師	SMBG指導，各種デバイスのデータ管理	
リハビリテーション部 作業療法士 理学療法士 視能訓練士	集団指導での各専門分野の指導	
歯科衛生士	デンタルチェック	
管理栄養士	栄養指導，透析予防指導	

在の腎症の病期分類や血圧管理について，管理栄養士からは塩分の摂取状況の確認や減塩について，パンフレットを用いて指導にあたる．また，蛋白質の制限については高齢者のサルコペニア・フレイルのリスクのある患者には慎重に行っている．

外来カンファレンス（月1回）

糖尿病専門医，管理栄養士に加え，外来患者になかなかかかわれない薬剤師や臨床検査技師も参加している．外来患者の療養指導でうまくいかないケースを多職種で話し合ったり，データマネジメントシステムを活用した療養指導や治療方針を検討したりする場となっている．

地域活動（糖尿病友の会，市民公開講座）

町立大淀病院から引き継いでいる糖尿病友の会（清友会）は，1973年に奈良県で最初にできた患者会である．近年は会員の高齢化などにより会員数が減ってきているが，年3回の交流会では参加人数が少ないからこそできる，参加型の実践セミナーを心がけている（図3）．

図2 教育入院スケジュール

市民公開講座は外来患者を中心に開催し，年2～3回実施している．講演に慣れていなかったり，他のチーム医療でも市民公開講座を担当していたり，医師以外のスタッフには市民公開講座の受け持ちが負担になってくることを考慮し，1時間の時間枠を30分×2コマに分けて，2職種が担当するように工夫している．また，ポスターの作成も，「参加してみようかな」と思ってもらえるよう工夫している